

# 歴史的分野指導計画表・評価規準

本資料で1時間ごとに示している評価規準の例は、学習改善につなげるための形成的な評価の一例であり、必ずしも1時間ごとに事実的な知識の獲得を評価する趣旨ではありません。

【評価の観点の略称】知識・技能＝知技，思考・判断・表現＝思判表，主体的に学習に取り組む態度＝態度  
(○＝「評定に用いる評価」，●＝「学習改善につなげる評価」)

## 第1章 歴史へのとびら

### ◆評価規準の例（章全体）

\*は学習指導要領との関連

指導目標	知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させる。</li> <li>資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。</li> <li>具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。</li> <li>時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。</li> <li>○資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。</li> </ul>
	<b>思考・判断・表現</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。</li> </ul>
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul>

### ◆評価規準の例（各時間）

主な学習内容	学習目標	評価規準の例
<b>■導入の活動(歴史の流れ)</b> (p.6~7) <b>1 時期や年代の表し方</b> (p.8~9) 年表を読み取ろう <b>2 歴史の流れのとらえ方</b> (p.10~11) 年表にまとめよう <b>3 時代の特色のとらえ方</b> (p.12~13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解する。</li> <li>資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。</li> <li>時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し、表現する。</li> <li>歴史の表現方法や歴史的な見方・考え方について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解している。(知技)</li> <li>○資料から歴史に関わる情報を読み取り、年表などにまとめることができる。(知技)</li> <li>○時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などを、時代区分との関わりなどについて考察し、表現している。(思判表)</li> <li>○歴史の表現方法や歴史的な見方・考え方について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。(態度)</li> </ul>

第2章 古代までの日本

◆評価規準の例（章全体）

指導目標	知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解させる。</li> <li>日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。</li> <li>律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。</li> <li>仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。</li> <li>○日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。</li> <li>○律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。</li> <li>○仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における国家形成、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における国家形成、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>○古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> <li>古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul>

1節 世界の古代文明と宗教のおこり

◆評価規準の例（節全体）

\*は学習指導要領との関連

指導目標	知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p>

## 歴史－2

<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の古代文明や宗教のおこりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の古代文明や宗教のおこりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul>
---	---

### ◆評価規準の例（各時間）

主な学習内容	学習目標	評価規準の例
<b>1 人類の出現と進化</b> (p.20～21) 人類の出現 旧石器時代 新石器時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>人類が進化してきた過程や、人類の特徴を理解する。</li> <li>土器や石器の発明によって、人々の生活が変化したことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人類の進化の過程や、人々の生活の変化を理解している。(知技)</li> </ul>
<b>2 古代文明のおこりと発展</b> (p.22～23) 文明のおこり エジプト文明 メソポタミア文明 インダス文明	<ul style="list-style-type: none"> <li>古代文明がおこった地域の特徴について、成立した位置や場所に注目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古代文明がおこった地域の特徴について、成立した位置や場所などの共通点に着目して考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<b>3 中国文明の発展</b> (p.24～25) 中国文明の発生 秦の中国の統一 漢の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国の古代文明の特徴を、様々な資料を通して理解する。</li> <li>中国の古代文明が日本に与えた影響について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国の古代文明について、殷から漢までの大きな流れを理解している。(知技)</li> <li>中国から日本へ伝わった文物の特徴を理解している。(知技)</li> </ul>
<b>4 ギリシャ・ローマの文明</b> (p.26～27) ギリシャの都市国家 ヘレニズム ローマ帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>ギリシャ・ローマの文化と政治や社会の仕組みの特色を理解する。</li> <li>ギリシャ・ローマ文明の特徴について、現在のヨーロッパ文化との関係に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真資料などを通して、ヘレニズムの文化がインド・中国・日本の美術に影響を与えたことを理解している。(知技)</li> <li>ギリシャ・ローマ文明の特徴について、現代ヨーロッパとの共通点に着目して考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<b>5 宗教のおこりと三大宗教</b> (p.28～29) 宗教のおこり 仏教のおこり キリスト教のおこり イスラム教のおこり	<ul style="list-style-type: none"> <li>古代の宗教のおこりについて、その概略を理解する。</li> <li>宗教がおこった地域の特徴について位置や場所に注目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仏教、キリスト教、イスラム教の特徴を理解している。(知技)</li> <li>三大宗教が成立した地域が、西アジアやインドなど、古代文明が発展した地域と重なっていることを考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>

## 2 節 日本列島の誕生と大陸との交流

### ◆評価規準の例（節全体）

\*は学習指導要領との関連

指導目標	知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。</li> <li>農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列</li> </ul>

の接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
	●日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

主な学習内容	学習目標	評価規準の例
<b>1 旧石器時代と縄文時代の暮らし</b> (p.30~31) 旧石器時代の暮らし 縄文時代の暮らし	・日本列島における旧石器時代の人々の生活の様子を理解する。	●様々な資料から、日本列島で狩猟・採集の生活を行っていた人々の生活の特徴について理解している。(知技)
<b>2 弥生時代の暮らしと邪馬台国</b> (p.32~33) 弥生時代の始まり 国々の成立 邪馬台国	・弥生時代の人々の生活の様子と、日本における国家形成の過程を理解する。 ・弥生時代に日本の国家が形成されていく過程について、東アジアとの関わりに着目して考察し、表現する。	●弥生時代の人々の生活の様子と、日本における国家形成の過程を理解している。(知技) ●中国の文献などから、国家が形成されていく過程について大陸の影響に着目して考察し、表現している。(思判表)
<b>3 大王の時代</b> (p.34~35) 大和政権の発展 古墳時代の文化 中国・朝鮮半島との交流	・大和地方を中心に国内が統一されたことを理解する。 ・大和政権の統一に関して、朝鮮半島の影響に着目して考察し、表現する。	●大和政権の国内統一の過程を、古墳の分布や鉄剣などの資料を通して理解している。(知技) ●大和政権の国内統一の動きが朝鮮半島との交流の影響を受けていることに着目して考察し、表現している。(思判表)

## 3 節 古代国家の歩みと東アジア世界

◆評価規準の例（節全体）

\*は学習指導要領との関連

指導目標	知識・技能
・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。 ・仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解させる。 ・東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・律令国家の形成、古代の文化と東アジアと	○律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ○仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。
	<b>思考・判断・表現</b>
	○東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
	●律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

歴史－4

<p>の関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。</p>	
--	--

◆評価規準の例（各時間）

主な学習内容	学習目標	評価規準の例
<p><b>1 聖徳太子の政治改革</b> (p.36～37) 朝鮮半島の動乱と隋の中国統一 聖徳太子と蘇我氏 飛鳥文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 聖徳太子や蘇我氏が目指した政治や、この時代の文化の特色を理解する。</li> <li>● 聖徳太子などの政治の特色について、大陸との関係に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 聖徳太子や蘇我氏が行った政治の特色を理解している。(知技)</li> <li>● 聖徳太子などの政治の特色について、隋との関係に着目して、その影響を受けたことを考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>2 東アジアの緊張と律令国家への歩み</b> (p.38～39) 唐の成立と東アジアの緊張 大化の改新 白村江の戦いと壬申の乱</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を理解する。</li> <li>● 7世紀の国内の情勢を、東アジアの動きに着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大化の改新と、その後の律令国家への展開を理解している。(知技)</li> <li>● 律令国家を目指す国内の情勢を、中国や朝鮮半島の動きに関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>3 律令国家の成立と平城京</b> (p.40～41) 大宝律令 平城京 地方の仕組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 律令制度の内容を基に、古代国家の仕組みを理解する。</li> <li>● 古代国家の仕組みについて、中国の影響に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 律令制度による古代国家の仕組みを理解している。(知技)</li> <li>● 律令による古代国家の仕組みについて、中国の影響と関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>4 奈良時代の人々の暮らし</b> (p.42～43) 人々の身分と負担 土地の私有と荘園</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 奈良時代の人々の生活を理解する。</li> <li>● 奈良時代の人々の生活について、税や土地制度に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 奈良時代の人々が様々な税を負担していたことを理解している。(知技)</li> <li>● 奈良時代の人々の生活について、税や土地制度の変化と関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>5 天平文化</b> (p.44～45) 天平文化 奈良時代の仏教 歴史書と万葉集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 代表的な文化財を通して、天平文化の特色を理解する。</li> <li>● 天平文化の特色について、遣唐使の活動に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 天平文化が国際色豊かな文化であることを理解している。(知技)</li> <li>● 天平文化の特色について、遣唐使により大陸からの文物が多くもたらされたことと関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>6 平安京と律令国家の変化</b> (p.46～47) 平安京 律令国家の変化 新しい仏教の動き 東アジアの変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平安京遷都によって、政治や社会にどのような変化があったかを理解する。</li> <li>● 平安時代初めの政治について、奈良時代までの政治と比較して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 桓武天皇が行った政治の目的、内容などについて理解している。(知技)</li> <li>● 平安時代初めの政治について、支配領域の拡大や仏教の広まりなどと関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>7 摂関政治の時代</b> (p.48～49) 藤原氏と摂関政治 新しい税と国司の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 摂関政治や地方政治の変化から、平安時代の政治の特色を理解する。</li> <li>● 平安時代の政治の特色について、これまでの政治の在り方との違いに着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 10世紀に、摂関政治や土地制度など政治の在り方が変化したことを理解している。(知技)</li> <li>● 10世紀の政治の在り方を、それまでからの変化に着目して考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>8 国風文化</b> (p.50～51) 唐の滅亡と宋の商人 国風文化 浄土信仰</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国風化した文化の特色を理解する。</li> <li>● 国風文化の形成について、大陸との関係に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仮名文字の成立や文学作品などから、日本独特の国風文化の特色を理解している。(知技)</li> <li>● 国風文化の形成について、大陸の影響</li> </ul>

		響に注目して考察し、表現している。 (思判表)
--	--	----------------------------

### 第3章 中世の日本

◆評価規準の例 (章全体)

指導目標	知識・技能	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鎌倉幕府の成立、元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。</li> <li>• 南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。</li> <li>• 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。</li> <li>• 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> <li>• 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> <li>• 中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鎌倉幕府の成立、元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。</li> <li>○ 南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。</li> <li>○ 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。</li> </ul>	
		思考・判断・表現
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>○ 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
		主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>	

### 1節 武士の政権と成立

◆評価規準の例 (節全体)

\*は学習指導要領との関連

指導目標	知識・技能	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解させる。</li> <li>• 武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解している。</li> </ul>	
		思考・判断・表現
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>

歴史－6

<ul style="list-style-type: none"> <li>武家政治の成立について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。</li> </ul>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 武家政治の成立について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul>

◆評価規準の例（各時間）

主な学習内容	学習目標	評価規準の例
<b>1 武士の成長</b> (p.64～65) 武士の登場 武士団の形成 荘園・公領での武士の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>武士が次第に勢力を広げたことを、戦乱に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 武士の成長の過程を、導入資料などから読み取っている。(知技)</li> <li>● 武士が次第に勢力を広げたことを、地方や都で起きた戦乱と関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<b>2 院政から武士の政権へ</b> (p.66～67) 院政と武士 平清盛の政権	<ul style="list-style-type: none"> <li>平氏の政治の特色を、摂関政治と比較して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 源義経などの人物を中心に、源平の争いの経過について理解している。(知技)</li> <li>● 平氏の政治の特色を、摂関政治との共通点に着目して考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<b>3 鎌倉幕府の成立と執権政治</b> (p.68～69) 鎌倉幕府の始まり 執権政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉幕府の特色について、主従制度や承久の乱に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鎌倉幕府の特色について、将軍と御家人の関係や幕府と朝廷の関係に関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> <li>● 文字資料から、幕府と朝廷との勢力関係、将軍と御家人との関係を読み取っている。(知技)</li> </ul>
<b>4 武士と民衆の生活</b> (p.70～71) 地頭の支配 武士の生活 農業と商業の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉時代の武士や庶民の生活について、地頭や産業に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鎌倉時代の農業技術や手工業・商業の発達と、それに伴う生活の向上について理解している。(知技)</li> <li>● 鎌倉時代の武士や庶民の生活について、地頭による荘園支配や、定期市などの産業の発達と関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<b>5 鎌倉時代の文化と宗教</b> (p.72～73) 鎌倉文化 鎌倉仏教	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉時代の文化や宗教の特色について、これまでの時代との違いに着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鎌倉時代の文化や宗教の特色について、文化の担い手の変化に関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>

**2 節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開**

◆評価規準の例（節全体）

\*は学習指導要領との関連

指導目標	知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。</li> <li>南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。</li> <li>○ 南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。</li> <li>○ 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的</li> </ul>

歴史-7

<p>が見られたことを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。</li> <li>武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> <li>ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。</li> </ul>	<p>な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。</p>
	<p><b>思考・判断・表現</b></p>
	<p>○武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
	<p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p>
	<p>●ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>

◆評価規準の例（各時間）

主な学習内容	学習目標	評価規準の例
<p><b>1 モンゴル帝国とユーラシア世界 (p.74~75)</b> 遊牧民の生活 モンゴル帝国の拡大 ユーラシア世界の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モンゴル帝国がユーラシア世界に及ぼした影響を、大陸内の結び付きに着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●モンゴル帝国がユーラシア世界に及ぼした影響を、大陸の一体化とその影響に関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>2 モンゴルの襲来 (p.76~77)</b> 二度の襲来 鎌倉幕府の滅亡</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●モンゴルの襲来と日本への影響について、主従関係に着目して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●モンゴルの襲来と日本への影響について、御家人の動きと関連付けて考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>3 南北朝の動乱と室町幕府 (p.78~79)</b> 南北二つの朝廷 守護大名と地方の動き 室町幕府の支配の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建武の新政から南北朝の動乱に至る経過を理解する。</li> <li>●室町幕府の特徴を鎌倉幕府の仕組みと比較して考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●守護が新たな権限を与えられて守護大名となり、後の政治に影響を及ぼしたことを理解している。(知技)</li> <li>●建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や、動乱がもたらした武家社会の変化を考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
<p><b>4 東アジアとの交流 (p.80~81)</b> 日明貿易 朝鮮との貿易 琉球王国の成立 アイヌ民族の交易活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東アジアの人々の交流や結び付きを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日明貿易の様子、中継貿易で栄えた琉球や蝦夷地の動きなど、東アジアの人々との交流や結び付きを理解している。(知技)</li> </ul>